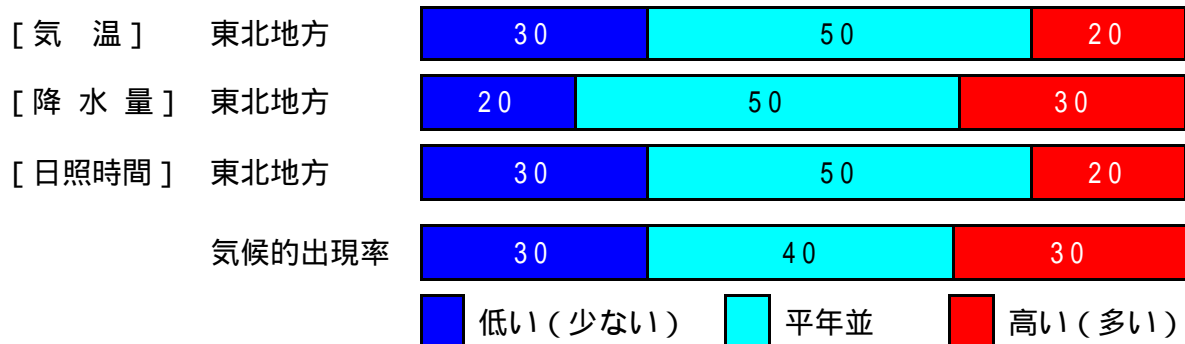


東北地方 1 か月予報の解説（予報期間：11 月 6 日～12 月 5 日）

平成 11 年 11 月 5 日 仙台管区气象台

1．向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）



- [気 温]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「低い」で、その確率は 30％です。「高い」の確率は 20％と小さい。
- [降 水 量]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「多い」で、その確率は 30％です。「少ない」の確率は 20％と小さい。
- [日照時間]: 東北地方は「平年並」の可能性が大きく、その確率は 50％です。次に大きい確率は「少ない」で、その確率は 30％です。「多い」の確率は 20％と小さい。

2．予想される天候の特徴

（もっとも高い確率の予報が実現した場合の天候は以下の通りです。）

向こう 1 か月

東北地方は、低気圧や高気圧が交互に通り、天気は周期的に変化するでしょう。低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置になる見込みです。また、寒暖の変動が大きい見込みです。

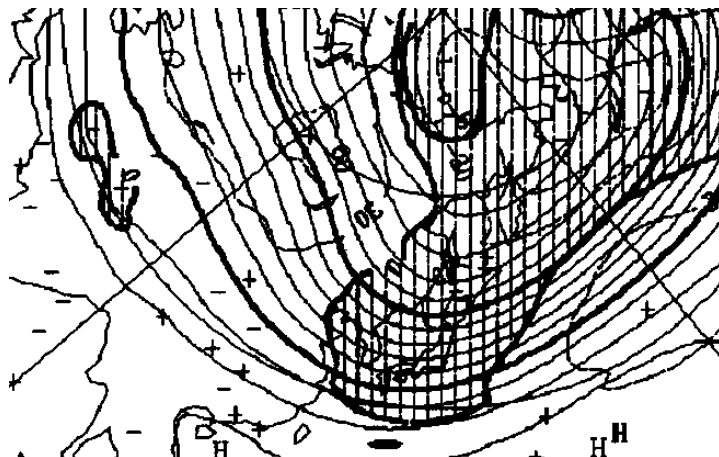
この期間の平均気温は平年並の見込みです。

平年の晴れ日数は東北日本海側で約 19 日、東北太平洋側で約 10 日です。

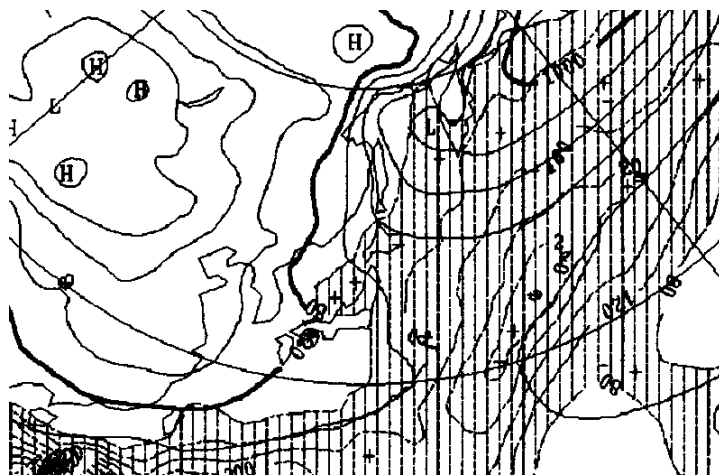
各予報期間の天候の特徴

- 1 週目…………… 期間の中頃に、気圧の谷や寒気の影響で日本海側を中心に天気がくずれるでしょう。その他の日は高気圧に覆われ晴れる見込みです。
(11 月 6 日～11 月 12 日) なお、詳細は週間天気予報を参照して下さい。
平均気温は高い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 3 日、東北太平洋側で約 4 日です。
- 2 週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。東北日本海側は曇りや雨の日が多いでしょう。
(11 月 13 日～11 月 19 日) 平均気温は平年並の見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 2 日、東北太平洋側で約 4 日です。
- 3～4 週目…………… 低気圧と高気圧が交互に通り、気圧の谷の通過後は一時冬型の気圧配置となるでしょう。東北太平洋側は平年同様晴れの日が多いでしょう。東北日本海側は曇りや雨または雪の日が多いでしょう。
(11 月 20 日～12 月 3 日) 平均気温は低い見込みです。
平年の晴れ日数は東北日本海側で約 4 日、東北太平洋側で約 9 日です。

予想される天候に関する循環場の特徴（アンサンプル平均天気図）



月平均の 500hPa 高度・偏差
（等高度：60m 毎、偏差：30m 毎、陰影部：負偏差）



月平均の地上気圧と降水量
（等圧線：4hPa 毎、降水量：40mm 毎、陰影部：80mm 以上）

・ 500hPa 高度・偏差

月平均でみると、北海道付近を中心として広く負偏差に覆われる。流れはゾーナル^{注1}で、日本谷^{注2}傾向を示す。このため、低気圧や高気圧が交互に通り天気は周期変化するが、低気圧の通過後は一時冬型の気圧配置となる見込み。週別(図略)では、1 週目は日本付近は正偏差におおわれるが、2 週目以降は負偏差におおわれ、寒気の影響を受けやすい見込み。

注1) ゾーナル：偏西風の南北の蛇行が小さい状態。低気圧や高気圧が順調に東進し、天気は周期的に変化しやすい。

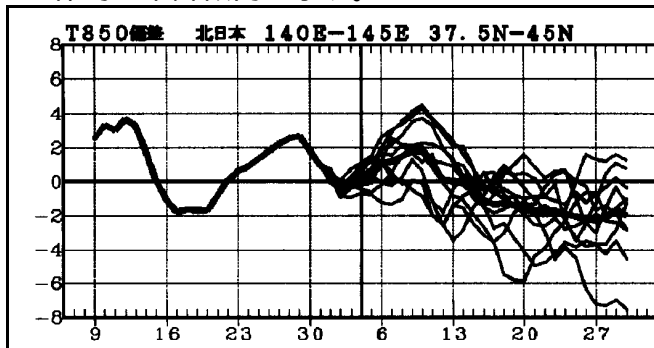
注2) 日本谷：日本の上空に気圧の谷が形成されている状態で、低気圧や前線の影響を受けやすくなります。

・ 地上気圧と降水量

月平均でみると、まとまった降水域は日本の東海上にあり、東北地方にはそれほどまとまったものは見られない。大陸の高気圧の張り出しがみられ冬型の気圧配置となることが予想される。特に 3～4 週目に冬型があらわれやすい予想。

3．北日本 850hPa の気温偏差の実況と各アンサンプルメンバーの予想

北日本 850hPa の気温は、アンサンプルメンバーの平均でみると、1 週目は週半ばに平年を上回り、2 週目以降平年から徐々に下降していく予想。各メンバーもばらつきはあるものの全体的に下降傾向を示す。



北日本 850hPa 高度（上空約 1500m）での気温偏差の実況と予想

縦軸：気温偏差（℃） 横軸：日付

発表日以降の細線は各アンサンプルメンバーの予想値、太線は平均値。

注)・資料の内容を他の要素により修正して予報を組み立てることがあります。

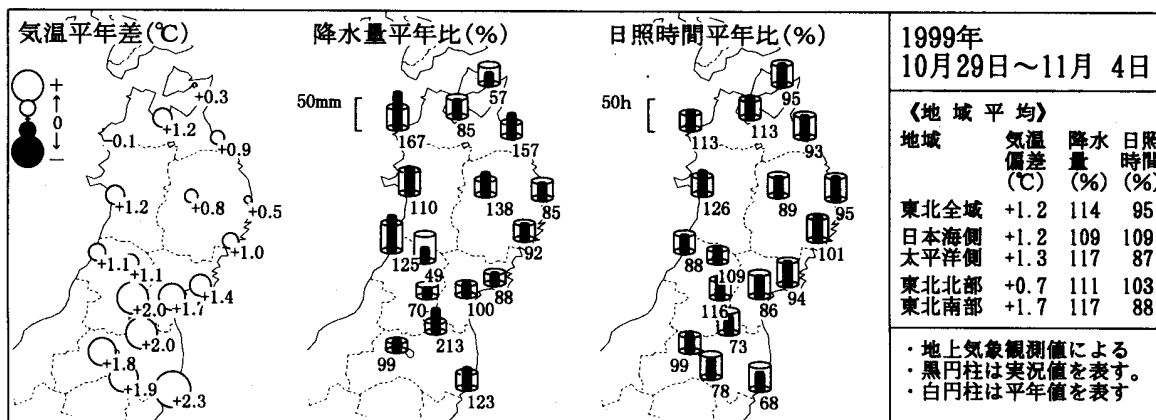
・850 hPa の気温は、地上の気温と必ずしも対応しないことがあります。

注：1 か月予報では、よく似た初期値から出発した 10 個の数値予報結果のバラツキ具合から予報の信頼度や確率を計算します（この手法をアンサンプル予報といい、10 個の予報結果のそれぞれをアンサンプルメンバーといいます）。一般に予報結果がばらつかないほど、大気の流れが予測しやすい状態にあると考えられます。このような状態の時は、信頼度が高くなり、確率の大きな予報を出すことができます。

4. 最近1週間(10月29日～11月4日)の天候の経過

この期間、天気は短い周期で変化した。30日と1日には低気圧の通過により東北地方は天気が曇りや雨となった。1日の低気圧の通過後は、一時的に冬型の気圧配置となり、東北太平洋側では晴れたが、東北日本海側では曇りや雨となった。

平均気温は東南北部で平年差が+1.7、東北北部で+0.7と平年より高かった。降水量は東北地方で平年比114%となった。日照時間は東北日本海側で平年比109%、東北太平洋側で87%となった。



最近1週間の平均気温、降水量及び日照時間の平年差(比)